

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,730	t-CO ₂
（温室①を除外炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,730

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	1,756	t-CO ₂	1,704	t-CO ₂	1,730	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	1.5	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）に基づき、年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減に努め令和3年度を基準として令和6年度までの三年間で3%の削減目標としていますが、単年度で1.5%の削減となりましたので想定より若干ですが削減が進んでいます。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	◆LED誘導灯、LED器具等への更新を促進する。	◇計画期間中にLED誘導灯・LED照明器具の更新を推進します。 (令和6年度内までに500灯)	◇照明器具の高騰や入手困難の状況から 殆ど進んでいません。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	◆老朽化した空調機は、高効率インバータ形への更新を促進する。	◇計画期間中に老朽化した空調機の更新を目指します。 (年間15台 令和6年度までに45台)	◇老朽化した空調機を14台更新致しました。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	◆空調効率を改善するために、室外機ミスト散布を実施し、冷房対策を行う。 ◆室外機周辺に日除けネットを敷設し、空調効率を向上させる。	◇日除けネットやミスト散水設備による冷却効果を高めると共に 水の使用量を抑える為の設置方法や設置場所の改善を行う。	◇日除けネットを5月から10月まで実施いたしました。 ◇室外機ミストは 水資源の観点から7月から8月まで実施致しました。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	◆ヒートポンプ式空調の温度設定は、病院職員に対し地球温暖化対策の普及啓発を行う。	◇ヒートポンプ式空調の温度設定は、病院職員に対し省エネルギーの必要性省エネルギー対策の効果を示すことにより、病院職員の省エネルギーに対する意識高揚を図り、実効性を高める。	◇ヒートポンプ式空調の温度設定に対するための、病院職員への地球温暖化対策啓発活動を継続しています。
省エネルギー・省資源の行動の実践・衛生設備	◆ガス空調機器やガス焚ボイラーは 空気比の改善を徹底し改善に努める。	◇蒸気ボイラーや吸収式冷温水発生器等のガス機器は 定期的に空気比の管理を行い、適正な運転になるよう努める。 ◇ガス焚温水ボイラーは 空気比の改善を徹底し改善に努める。	◇蒸気ボイラーと吸収式冷温水発生器は メーカーの整備を実施し 空気比の適正化を図っています。

<p>省エネルギー・省資源の行動の実践・衛生設備</p>	<p>◆ガス焚蒸気ボイラーを熱源機器とする給湯設備は 貯水槽廻りのスチームトラップや温度調節弁を点検及び整備をする。</p>	<p>◇スチームトラップは 蒸気の内漏れや詰まりによる凝縮水の排出不良による効率低下を防ぐため機器の定期的な点検及び整備を行う。 ◇温度調節弁は蒸気の内漏れによる過剰温度上昇させないように整備する。</p>	<p>◇蒸気熱源の温度調節弁の点検を実施し、適切な貯湯槽の温度管理を保つことを努めています。 ◇スチームトラップも点検を行い、整備の必要な機器に対しては実行致しました。</p>
<p>省エネルギー・省資源の行動の実践・衛生設備</p>	<p>◆ガス空調機器やガス焚ボイラーは 設定温度管理・運転時間管理を徹底し改善に努める。</p>	<p>◇蒸気ボイラーや吸収式冷温水発生器等のガス機器は 運転時間削減や運転負荷軽減を目的として 患者サービスを低下させない運転時間や温度管理を行い。また 機器の定期的な整備を行う。</p>	<p>◇ガス焚式吸収式冷温水発生器の温度設定は常には節約運転モードとして 7月8月の酷暑に 昼前後に一時的のみ 通常運転モードに戻すように努めました。</p>
<p>省エネルギー・省資源の行動の実践・衛生設備</p>	<p>◆厨房等のガス機器の更新時には、高力率型機器の採用を念頭に検討する。 ◆厨房等のガス機器の仕様方法を見直し、ガス使用量の改善を試みる。</p>	<p>◇不必要なガスの消費を抑えるように 従業員教育を実施する。 ◇ガス機器の更新に 採用判断基準の一つとして ガスの消費量を項目とする。</p>	<p>地球温暖化対策の普及啓発活動を継続しています。</p>

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--